

視察研修旅行

国立科学博物館・東京都恩賜上野動物園

11
24

11月24日、友の会視察研修旅行が行われ、参加者を乗せたバスは、国立科学博物館と東京都恩賜上野動物園へ向けて出発しました。関越道を通る途中、雪化粧の富士山を遠くに見ることができました。

上野公園は多くの観光客で賑わい、国際的な雰囲気にあふれていました。国立科学博物館の入口で15時20分集合を確認した後、「はにわ展」や「鳥展」を見学するなど、各自が目的の場所へと移動しました。

私たち女子3人組は動物園を訪れ、歩き回るベンガルトラや隅に座るゴリラ、後ろ向きのホッキョクグマを見学しました。その後、パンダの展示エリア「パンダのもり」を目指しました。途中、東園から西園へ向かう「いそっぷ橋」から不忍池を眺め、パンダ待ちの行列に60分待ちの看板を見つけましたが、並ぶことにしました。

ちょうど1時間後、オスのシャオシャオを間近で観察することができました。竹をバリバリと音を立てて食べる様子は非常に愛らしく、絶好のシャッターチャンスが多くありました。一方、メスのレイレイは高い場所で日向ぼっこ中で、頭しか見えませんでしたが、それでも多くの人が楽しんでいました。

また、国立科学博物館では、多様な展示に感動する声が多数聞かれました。特にボランティアスタッフの説明を真剣に聞く子どもの姿が印象的でした。

この研修旅行を通じて、楽しい思い出とともに貴重な経験を得ることができました。今年度最後の行事が無事に終了したことに感謝申し上げます。(伊丹 清美)



友の会入会・継続のお願い

博物館への入館料が1年間無料!

その他の
特典は
次の3つです。

- 1 ミュージアムショップの割引
- 2 友の会行事等への参加
- 3 博物館からの情報配布

年会費

- ①一般会員.....3,000 円
- ②高・大学生.....2,000 円
- ③小・中学生.....1,000 円
- ④家族会員.....5,000 円
- ⑤賛助会員(1口).....10,000 円

◎現会員の方は、引き続き入会をお願いします。また、お知り合いの方に新規加入をおすすめいただければ幸いです。

博物館利用案内

開館時間：午前9時30分～午後5時

(ただし、入館は午後4時30分まで)

休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)

その他都合により休館することがあります。

観覧料：一般510円 高校・大学生300円

中学生以下無料

※企画展開催中は、別料金になります。

※身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料です。

企画展情報

第71回企画展

「ツツジとその仲間たち ―華麗にして奇妙な一族の話―」

2025年7月19日(土)～9月7日(日)

ツツジ科植物はツツジ・シャクナゲのほかブルーベリーやアセビ、さらに近年の研究でギンリョウソウまで含む多様なグループということがわかりました。ツツジ科は高山などの過酷な環境にも適応しながら独特の進化を遂げました。また、ツツジ科は人とのかわり合いも多いグループです。ビジュアルな画像や標本と、最新の植物学の知見を駆使して、美しくも不思議なツツジ科植物と、その生き方をこの企画展では紹介します。



第72回企画展「ながいながい骨の旅」

2025年7月19日(土)～9月7日(日) Season1
9月13日(土)～12月7日(日) Season2

(9/8～12は観覧できません)

当館が監修に携わった絵本「ながいながい骨の旅」を題材に、骨に焦点をあててご紹介します。生命の誕生から、背骨を獲得した動物が地上に進出し発展してきた過程や、ディクターリクやイクチオステガといった昔の生きものたちと、私たちとのつながりを、骨を通して体感してください。自然史博物館ならではの絵本の世界をお楽しみください。



私が見つけた自然 募集中

自分の身の周りで、かわいらしい自然を見つけたとき、珍しい自然と出会ったとき、その瞬間をカメラで記録し、写真とその時のエピソードを添えて自然史博物館の友の会へ封書またはメール(博物館担当アドレス:tanaka@gmnh.pref.gunma.jp)でお送り下さい。会員同士、すてきな自然の情報交換の場になればと考えています。なお、応募していただいた方にすてきな賞品をプレゼントします。



友の会通信

～群馬県立自然史博物館友の会～

2025
Vol.
46

第1回友の会/

体験
活動

鏑川で『鏑川の石の博物館』を作ろう!



晴天に恵まれた5月3日、ぐんま地質・岩石研究会の中島啓治先生(元自然史博物館副館長)、黛勝司先生を講師にお迎えし、14名の参加者と友の会役員が体験活動を行いました。

既にたくさんの種類の石が収められた標本セットには、2か所の空きがあります。この空きを埋めるために河原で「チャート」と「石灰岩」を探し、自分だけの標本セットを作り上げました。標本セットには紙に包まれた「お宝」(あとのお楽しみ)も入っており、非常に楽しい内容でした。

河原に降りた後、先生からハンマーやルーペの使い方を教わり、参加者はそれぞれが自分の「チャート」と「石灰岩」を見つけました。さらに興味を持った石を拾い、自慢の標本セットを完成させました。標本セットに入らなかった石はポケットに大事にしまう姿も見られました。

講師の先生方の豊富な知識と愛情があふれる体験活動でした。また、子どもも大人も童心に帰り、小さな流れに石や流木で橋を作って河原を渡ったり、水切りを楽しむ場面もありました。とても楽しいイベントとなりました。

(多胡 喜代美)



会長挨拶

自然史博物館友の会 会長 櫻井 昭寛



明けましておめでとうございます。

令和6年度の博物館友の会では、総会・講演会、3回の体験活動、県民の日の化石レプリカ作り、視察研修旅行を実施しました。皆様には楽しんでいただけましたでしょうか。

友の会のイベントに参加し、「自然って面白いなあ」と感じたり、もっと自然について知りたいと思ったり、博物館の専門の先生に話を聞いてみたくなったりしたならば、友の会の活動は成功だと思います。

ぜひ、自然に興味を持っていただき、友の会の仲間とともに学んでいきましょう。本年が皆様にとってより良い年になりますようお祈り申し上げます。

鐺川の石のふるさと、自然史博物館開設こぼれ話

5月3日に友の会の総会が行われました。櫻井会長が、開館当初から展示されていたクジラの標本が新種だった事の喜びを語るとともに、皆さんと一緒に博物館を盛り上げて行きましょうと挨拶をされました。

友の会の講演会では、開館に携わってくださった、元自然史博物館副館長、ぐんま地質・岩石研究会の中島啓治先生より、『鐺川の石のふるさと、自然史博物館開設こぼれ話』という題で、お話ししていただきました。



前半は観察会の場所の石は、どこから来たものかについて調査した内容を、後半は博物館の人類の歴史の展示が作られた経緯を、とても興味深く教えてくださいました。

「凝灰岩層のバブルウォール型の火山ガラスが隙間を埋めている特徴が知れた」「ダビンチのプロセスに従った創作活動がされていた」「この博物館の展示の質の高さを実感できた」など、参加者からご意見をいただきました。貴重なお話を教えてください、楽しい時間をありがとうございました。（江原 久美子）

動物の骨を観察してみよう

9月16日、自然史博物館生物研究系の姉崎智子先生を講師に迎え、第2回友の会体験活動「動物の骨を観察してみよう」を博物館実験室で開催しました。

12台の実験台に、No.1からNo.50までの哺乳類の頭骨が並べられ、9組23人の参加者がワークシートに「No.・動物名・理由」を記入しながら観察活動を行いました。姉崎先生からは「観察する際は、全体的な頭の形や歯の大きさに着目してください」とのアドバイスがありました。



参加者たちは大小さまざまな頭骨に触れたり、顎を動かしたりしながら、頭骨の名前をワークシートに記入しました。親子同士で「この動物は何だろう？」と理由を考えながら話し合う姿も多く見受けられました。最後には、姉崎先生が各実験台ごとに置かれた動物の頭骨について名前の確認と解説をしてくださいました。

参加者からは、「草食動物と肉食動物の歯のつくりの違い」「キリンとウシの頭骨の重さの違い」「草食動物の目が横についていることで視野が広がること」「歯の臼歯の生え方でおよその年齢が予想できること」「ニホンザルは犬歯の大きさと雌雄が分かること」など、骨の構造から得られる多くの情報を実感したとの声が寄せられました。

身近な動物や絶滅した動物の頭骨標本を直接観察できたことは、とても貴重な体験になったと思います。

（渡部 淳司）



きのこを探して胞子を見てみよう

10月19日、第3回体験活動「きのこを探して胞子を見てみよう」をテーマに、自然史博物館生物研究系の伊藤智史先生を講師に迎え、開催しました。

実験室には事前に多くのきのこ標本を準備していただいております。開始前から参加者たちが標本を囲んで会話が弾んでいました。活動は、先生の説明を聞いてから博物館周辺でのきのこ探しに移りました。

博物館南側の道に出ると、早速きのこに出会いました。普段は気にせず通り過ぎてしまうような場所でも、きのこを探しながら歩くと発見の連続で、なかなか先に進みませんでした。

事前に生える場所の特徴を教えてくださいいただいたおかげで、土の表面だけでなく、枯れ枝などから生えるきのこも見つけることができました。

採集の際は、根元が同定のポイントになるため、柄やかさの部分だけでなく根元から採ることを教わりました。また、きのこの見分け方として「ツバの有無」や「ツボの有無」を学びました。ツバやツボの有無の組み合わせによって、大まかな科の分類が可能であることを知り、実際に採集したきのこでも確認できました。

当日は前日の下見よりも多くのきのこが見られ、絶好の観察日和でした。この活動を通じて、きのこの採集や観察のポイントを学び、きのこの役割についても知ることができました。身近なきのこにもっと関心を持ちたくなる楽しい体験でした。



（山口 裕子）

10月28日、自然史博物館友の会による県民の日イベント「暗闇で光るレプリカづくり」が行われました。

昨年の同様のイベントでは52名が参加したため、今回は80セットほどの材料や道具を準備してイベントを開始しました。参加者はバットを受け取り、テーブルごとにスタッフから作り方の説明を聞きながらレプリカ作りを始めました。

まず、目を守るためのゴーグルを装着し、畜光パウダー入りの容器にテーブルに置かれた「魔法の粉」を一杯加え、水と混ぜます。その後、石膏を加えてペースト状になるまでかき混ぜ、型に流し込みます。気泡を抜くために型を軽く叩き、約20分待つと固まります。型から丁寧に外すと、暗闇で光るレプリカが完成しました。

完成したレプリカに歓声を上げ、感動する参加者たちの姿が印象的でした。レプリカを紙に包んで袋に入れ、大切に持ち帰る様子も見られました。

今回のイベントは定員100名でしたが、友の会会員11名、一般参加者111名と、昨年の2倍以上に当たる122名の参加がありました。途中から会場が満員となり、外に行列ができるほどの大盛況でした。予想以上の参加者に戸惑う場面もありましたが、大きなトラブルなく無事に終了しました。多くのご参加、ありがとうございました。（倉金 秀行）

